

本部 令和6年度 事業計画書

令和5年度総務室長 清水良憲

本部 令和6年度事業報告書

令和6年度総務室長 清水良憲

方針	方針
・中期計画を浸透させ、各事業計画の実行及び、目標達成に努める。 ・利用者、職員の豊かな生活、人財の確保・定着のための財源確保に努める。	・中期計画を浸透させ、各事業計画の実行及び、目標達成に努める。 ・利用者、職員の豊かな生活、人財の確保・定着のための財源確保に努める。

事業計画の内容		具体的手段		責任者		事業報告		
目標	目的	実行計画	期限	正	副	目標に対する結果	課題	今後の取り組み
中期計画に基づき年度の事業計画を達成させていく。	方向性や今やるべきことを明確にし、全職員がそれに向かい行動できるようにする。	① 各事業所が中期計画に基づいた具体的な行動ができるよう、説明や進捗状況確認を目的とし事業所巡回を四半期毎に行い、各実行計画を見直す。	令和7年3月	室長	補佐	中期計画の具体的な説明のための巡回は未実施	①中期計画を項目毎で担当を割り当てた。具体的に定期的な進捗の確認をしていく必要あり。	中期計画から今年度の執行する内容を決めた為、進捗管理をしていく。また、中期計画の説明において各事業所に巡回し、職員に説明を行う。
人材の確保・定着 離職率の低減 令和5年度離職率実績:12.2%（8人） 令和6年度離職率目標:10%以下（7人以下）	安定的に人材確保し、また、定着させることにより事業を円滑にすすめ、豊かな生活ができる働きやすい職場をつくる。	② 法人の魅力を整理し、福井県内（福井・三国・大野・小浜）のハローワークや各学校、その他関係機関に定期的に出向き、人材を確保する。	令和7年3月	室長	補佐	令和6年度離職率 15.1%（4月～3月） 退職者10人（定年退職2名） 正職員・新卒採用者2人 中途採用者10人	②ハローワークのみの求人だけでなく、人材派遣、人材紹介の会社と連携しながら人員確保をしていく。	派遣業者・人材紹介会社等の多方面から情報収集をし、長期的にで人材確保ができる方法を検討する。
		③ 就業規則の見直し、福利厚生の実等、働きやすい職場環境作りをすることにより、人材の確保及び定着を図る。	令和7年3月	室長	補佐		③他法人と比較し、賞与額や休日の日数など見直しが必要である。	比較検討することで現状を把握し、その上でどうしていくのか、どのような福利厚生が働きやすい職場なのか検討する。
職員賞与の増額 令和5年度年平均実績:1.8ヵ月 令和6年度年平均目標:2ヵ月（処遇改善手当含む）	法人の財政基盤を安定させ、職場環境の改善、福利厚生の充実や一般的な賞与に近づけることにより職員の定着を図る。	④ 予算の進捗状況を四半期毎に確認し課題を改善する。また、四半期毎に支払い工賃または就労支援事業収支、加算の取得状況等を確認し、それらの増に向け検討することにより、基本給付・加算の増につなげる。	令和7年3月	室長	補佐	丸紅基金社会福祉助成金事業申請・中央競馬車両助成金申請・日本郵便年賀寄附金申請	④決算の予測をし、就労支援事業収支等を確認した。	四半期ごとの進捗状況を把握し、就労支援事業収支、加算の取得状況等、理由も含めてを確認する。
		⑤ 各種補助金や助成について情報を収集し、必要に応じ申請する。また、新規事業について確実に増収となるよう、各担当において進捗管理及び課題を改善する。	令和7年3月	室長	補佐		⑤申請をする団体がマンネリ化しているため、新規団体の情報を調べる。	引き続き助成事業をしている団体の情報を収集し必要に応じて申請をする。

スケジュール													スケジュールに対する結果												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①													①												
	事業所巡回			事業所巡回			事業所巡回			事業所巡回				担当を割り当て、具体的な方法等を検討する			担当を割り当て、今年度中期計画の取り組み開始			担当にて具体的な取り組み実施			進捗の確認・来年度以降の計画作成		
②													②												
	関係機関への訪問			関係機関への訪問			関係機関への訪問			関係機関への訪問				福井県内(福井・三国・大野・小浜)のハローワークを訪れる			人材紹介・人材派遣との連携			見学受入れ・面接の実施			見学受入れ・面接の実施		
③													③												
				他企業や他法人の福利厚生の調査			就業規則の見直し							他法人との比較を行う			他法人との比較 所長会議にて検討			コンサルタントと協力して就業規則および新給与規程を作成			就業規則の大幅改定		
④													④												
	進捗状況確認、改善			進捗状況確認、改善			進捗状況確認、改善			進捗状況確認、改善				所長会議にて検討			所長会議にて検討			所長会議にて検討			所長会議にて検討		
⑤													⑤												
	情報収集・適宜助成申請			情報収集・適宜助成申請			情報収集・適宜助成申請			情報収集・適宜助成申請				情報収集 助成金申請			助成金申請			新たに助成金を申請する団体の情報収集			助成金申請		

福井事業所 令和6年度 事業計画書

令和6年度所長 水本 智也

福井事業所 令和6年度事業報告書

令和6年度所長 水本 智也

方針	方針
・多様な利用者から選ばれ、地域や家族から必要とされる福祉施設をめざす ・職員が自己研鑽と日々の個別支援向上に努め、「ここで永く働きたい」と思える職場創りに努める	・多様な利用者から選ばれ、地域や家族から必要とされる福祉施設をめざす ・職員が自己研鑽と日々の個別支援向上に努め、「ここで永く働きたい」と思える職場創りに努める

事業計画の内容		具体的手段		責任者		事業報告		
目標	目的	実行計画	期限	正	副	目標に対する結果	課題	今後の取り組み
【生活介護】 ・新規利用者4名確保 ・利用率、利用数の向上による給付費収入増 (目標:前年度予算対比20%増)	利用定員、利用率の向上 1日の平均利用者数を増やす。	① 教育機関、相談支援事業所との関係を築き、定期的な訪問や情報収集を行い、新規利用、新卒者利用へ結び付けていく。	令和7年 3月	サビ管	支援員	【生活介護】 ・第4四半期:新卒者2名 新規1名 計3名 ・平均利用者数(R5年度 14.9人/日) 第4四半期:11.3人/日 ・R5第4四半期給付費計 39,030,770円 R6第4四半期給付費計 49,028,439円 (前年比125.6%)	①教育機関からの新卒は、実習から結び付けていくため、早期の営業が課題。また、現在行っている支援の内容をプログラムとしてまとめ、事業所のアピールポイントにしていけるかが引き続き課題。 ②利用者と保護者の高齢化が課題。入所施設や日中支援型グループホームの需要が高く、サービス利用先が徐々に移行しつつある。	実習先の対象として検討してもらえるように、事業内容や特色は何かを明確に伝えていく。 年2回の支援計画更新時の保護者面談や担当相談員との連絡を密に取り、常に情報を把握。同時に相談員とのコンタクトを取り、利用者の確保(営業活動)を行っていく。
		② 利用者個々の予定利用数に対して欠席や利用停止につながらないように普段から支援を通して働きかける。また利用者のニーズに対して情報収集し、サービスを見直すことにより月間利用日数増へつなげる。	令和7年 3月	サビ管	支援員			
【放課後等デイサービス】 ・新規利用者4名確保(初期3名→7名) ・利用日数の向上による、給付費収入増	・利用定員の充足(定員10名) ・新規事業のため、経営を安定させ、軌道にのせる。	③ チラシ・パンフレットの配布、教育機関への訪問、相談支援事業所への営業などを定期的に行い、事業所の周知、認知度を高め、利用者増を図る。	令和7年 3月	児発管	保育士	【放課後等デイサービス】 ・新規利用者目標4名に対し5名確保 ・平均利用者数1.0名/日 ・現利用者に対して行っている支援などを相談員や見学者に伝える活動を行った ・利用者個々のスケジュールを作成 ・障害特性に合わせた支援方法を学ぶため法人外の放課後等デイサービス2ヶ所実習	③チラシや営業活動後相談支援専門員から、見学の応募があった。次年度に向けての相談があり、今年度内での利用にどうつなげていけるかが課題。 ④年度前半に次年度の利用施設を決めていく為、活動の内容やサービス、営業時間や送迎範囲などを明確に伝え、利用者(保護者)にとって利用しなくなる事業所作りが課題。	定期的な訪問が重要だという事を認識し、認知度を高めるよう特別支援学校と連携を取りながら活動を行っていく。 各機関や相談支援専門員からどんなサービスが喜ばれるのかなど情報収集し、事業運営に反映出来るよう検討していく。専門的な支援を提供できるように各種機関と連携する。
		④ 事業所独自の特徴や支援プラン、活動などを充実させ、利用者が楽しく通える環境、雰囲気作りを行い、興味関心を持ってもらう。(法人の強みを活かした活動、支援ツールの充実)	令和7年 3月	児発管	保育士			
【事業所全体】 福井事業所の課題を見える化し、一覧化していく。課題をカテゴリ化、重要度などに分類し、常に職員全員が意識できる風土、意識付けを行っていく。	・従事する職員全員の自発的な改善意識、企画力の向上	⑤ 事業所内の課題を職員会議の項目に追加し、話し合いの場を設ける。年間通じてまとめ、集計し進捗を管理、見える化していく。	令和7年 3月	副所長	支援員	【事業所全体】 ・次年度に向けてアイデアを集約、精査し、次年度に向けてチャレンジ化するなど、職員主体で案を出すことができた ・全体で職務の分担を行い【事業所】として担当の業務を意識づけとして、各職員が率先して行動し、サビ管がまとめ役となり、管理職は進捗管理と指示を行う、という業務分担が7割達成できた ・児童の事業開始、今後の展開(児童発達支援など)について検討 ・生活介護事業では年間1名前後が退所し入所施設等へ移行していることから、保護者へのヒヤリング結果から予測していくことを開始	⑤職員会議内で課題を共有している。事業所の意見で出た課題に対してまとめているない。	課題、アイデア等を精査し、1年度からその先を見据えた方向性を決めるため、会議などで定期的に話し合う。
		⑥ 職務分担表などを活用し、各自の課題に対する取り組みを評価し、フィードバックする。	令和7年 3月		支援員			
	・1年、3年、5年後を見据えた視点での目標を具体化する。	⑦ 事業・運営に関する課題に対して、検討し方向性を決めていく。複数の選択肢を準備、検討することで、具体的に目標化する。	令和7年 3月	副所長	サビ管		⑦定期的に事業所運営に関わる問題点や課題について意見を出し、話し合いを行っていく。いつ、どれくらいの頻度で開催していくかが課題。ヒヤリングから開始していく。	年度前半は具体的な指示から始め、各々が自分の業務として意識出来るようにしていく。また業務の進捗状況の管理も一緒に行うなどして意識化する。 中期計画をベースにどのような進め方をしていくことが良いのかを職員会議やミーティング、部門会議などで話題としていけるような取り組みを行う。保護者や相談員から情報収集を行う。

スケジュール													スケジュールに対する結果												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①													①												
	情報収集 販促	アポイント 訪問等		情報収集 販促	アポイント 訪問等		情報収集 販促	アポイント 訪問等		情報収集 販促	アポイント 訪問等			各特別支援学校・相談支援事業所 訪問	各特別支援学校・相談支援事業所 訪問・自立支援協議会参加		各特別支援学校・相談支援事業所 訪問・自立支援協議会参加		南特別支援学校訪問						
②													②												
	ニーズ 情報収集	見直し プラン	実行	ニーズ 情報収集	見直し プラン	実行	ニーズ 情報収集	見直し プラン	実行	ニーズ 情報収集	見直し プラン	実行		ニーズ、情報収集 予定表の配布・実行	ニーズ 情報収集	プラン等 見直し	実行	面談・送迎時に保護者へのア プローチ、ニーズ確認、情報収集	面談・送迎時に保護者へのア プローチ、ニーズ確認、情報収集						
③													③												
	訪問、周知 活動	見直し	改善	訪問、周知 活動	見直し	改善	訪問、周知 活動	見直し	改善	訪問、周知 活動	見直し	改善		各特別支援学校・近隣小学校・相 談支援事業所訪問	各特別支援学校・相談支援事業所 訪問・自立支援協議会参加		毎月の自立支援協議会、児発管 ミーティング参加		南特別支援学校訪問						
④													④												
	計画	支援実行 改善評価		計画	支援実行 改善評価		計画	支援実行 改善評価		計画	支援実行 改善評価			支援ツールの導入 支援環境整備		活動予定 計画	長期休暇活動実行 振り返り 評価	活動内容振り返り 支援方法検討・ツール作成		活動内容振り返り 支援方法検討・ツール作成					
⑤													⑤												
	【毎月】課題洗い出し、確認 会議			【毎月】課題洗い出し、確認 会議			【毎月】課題洗い出し、確認 会議			【毎月】課題洗い出し、確認 会議				課題確認		【毎月】課題洗い出し、確認 会議		【毎月】課題洗い出し、確認 会議		【毎月】課題洗い出し、確認 会議					
⑥													⑥												
	課題 実施		振り返り 評価	課題 実施		振り返り 評価	課題 実施		振り返り 評価	課題 実施		振り返り 評価		職務分担表 の作成	実施 評価		見直し 実施		振り返り 評価	見直し 実施		振り返り 評価	見直し 実施		振り返り 評価
⑦													⑦												
	検討	検討 (案)	評価 検討会議	検討	検討 (案)	評価 検討会議	検討 実施	検討 実施	提案 予算化等	実行 準備				検討	検討 (案)	評価 検討会議	検討	検討 (案)	評価 検討会議	検討	ミーティング	評価 検討会議	検討	ミーティング	評価 検討会議

若狭事業所 令和6年度 事業計画書

令和5年度所長 早佐古 達也

若狭事業所 令和6年度事業報告書

令和6年度所長 早佐古達也

方針	方針
・利用者個々に応じた良質なサービス提供に努める ・利用者、職員共に快適で満足できる施設づくりを目指す	・利用者個々に応じた良質なサービス提供に努める ・利用者、職員共に快適で満足できる施設づくりを目指す

事業計画の内容		具体的手段		責任者		事業報告		
目標	目的	実行計画	期限	正	副	目標に対する結果	課題	今後の取り組み
【就労継続支援A型】 就労支援収支の黒字化	長期的に安定した運営のため	①社員の適性に応じたサービスへ移行を行いながら、支援マニュアル作成等により新規作業を安定的に行う。 ・A型→B型へ2名利用者移行	令和7年3月	主任	サビ管	・小浜病院の作業受託を今年度より開始し就労支援収支が黒字で推移している	小浜病院の盛付作業ができる社員の確保	特別支援学校の実習を積極的に受け入れ新規利用につなげる
【就労継続支援B型】 利用者の確保(2名) 平均工賃UP	定員充足	②作業種を新たに増やし、工賃の確保と作業内容を充実していくことで定員充足を図る。 ・売上2,000千円増、目標平均工賃25,000円→35,000円	令和7年3月	サビ管	支援員	・令和7年4月より特別支援学校新卒生1名の利用者確保 ・平均工賃(4月～3月)46,000円	小浜病院の食器洗浄作業ができる利用者の確保	特別支援学校の実習を積極的に受け入れ新規利用につなげる
【生活介護】 活動プログラムの見直し	定員充足	③活動プログラムを全面的に見直し、選ばれるプログラムにしていき、相談支援事業所への営業活動を行う。また、特別支援学校の実習をとおして次年度の新規利用者の獲得を目指す。(新規利用目標2名)	令和7年3月	サビ管	支援員	介護保険施設の専門職(理学療法士等)と連携して日常活動に新しい健康体操を取り入れた	活動プログラムの内容に根拠が乏しく専門性に欠けている	専門職員の配置を行う 地域施設の理学療法士と連携し専門的なプログラムを取り入れる
【日中一時】 利用者の確保	放課後デイサービス開設に向けた準備	④平時の活動の見直しを行い、新規活動を3種類/年取り入れる。また、平日平均3名利用を目指し、放課後デイへの移行を検討する。	令和7年1月	支援員	支援員	4月より小学部1年生3名新規利用	特別支援学校の長期休暇時の職員体制の確保	放デイ開設に向けて保育士等の職員確保
【共同生活援助】 長期計画の作成	グループホーム再編	⑤保護者面談時に生活面における今後10年の予定を立てる。グループホーム2拠点の統合・再編の検討をする。	令和7年3月	サビ管	支援員	長期計画の作成ができていない	事業所のGHの方向性が未だ定まっていない	グループホーム2拠点の統合・再編に向けて検討を行っていく
【相談支援】 新規契約者数5件	給付費収入増	⑥基幹相談支援事業所と連携し新規利用者を獲得する。	令和7年3月	相談支援専門員	主任	・新規利用契約者5名	相談支援専門員が1名のためモニタリングや計画作成の人数が多い月は作成する時間が十分とれない。	複数人体制で相談支援業務を行う検討

スケジュール													スケジュールに対する結果												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①													①												
	新規作業開始	検討会議	作業マニュアル作成	利用者の移行(2名)	検討会議	検討会議	作業マニュアル見直し	検討会議	検討会議	作業種の見直し	次年度作業種の確定	次年度準備		新規作業開始	検討会議	作業マニュアル作成中	利用希望者見学		特支学校実習打合せ	実習生受け入れ1名		作業検討会議実施	受託作業元との契約交渉	受託作業元との契約交渉	
②													②												
	地域企業に営業	地域企業に営業	相談事業所訪問	相談事業所訪問	利用者確保(1名)			地域企業に営業	地域企業に営業	相談事業所訪問	相談事業所訪問	利用者確保(1名)		地域企業と商談	地域企業と作業打合せ	地域企業と作業打合せ		地域企業と作業打合せ	地域企業と作業打合せ	実習受け入れ3名	特別支援学校訪問	地元企業訪問	受託作業元との契約交渉	受託作業元との契約交渉	利用予定者会議
③													③												
	プログラム検討会議	プログラム検討会議	プログラム確定	新プログラムで活動	新プログラムで活動	新プログラムで活動	相談事業所訪問			相談事業所訪問		相談事業所訪問		プログラム検討会議		プログラム検討会議	地域の理学療法士と打合せ		新規活動(体操)取り入れ	相談事業所訪問			専門職職員採用		健康体操取り入れ準備
④													④												
		行事・施設観覧	情報収集	新規活動の導入	行事・施設観覧	情報収集	行事・施設観覧	新規活動の導入	新規活動の導入	行事・施設観覧				自立支援協議会参加		自立支援協議会参加	サマースクール準備	サマースクール開催	特支学校と受け入れ検討			他法人相談事業所訪問		小浜市福祉課課長と面談	
⑤													⑤												
	面談4名 行政・施設訪問	面談4名 行政・施設訪問	面談4名 行政・施設訪問	行政・施設訪問	行政・施設訪問	面談4名 行政・施設訪問	面談4名 行政・施設訪問	面談4名 行政・施設訪問	計画作成 行政・施設訪問	計画作成 行政・施設訪問	計画作成 行政・施設訪問	計画作成 行政・施設訪問		面談2名	自立支援協議会参加	面談2名		自立支援協議会で空き状況説明	特支学校進路指導部長と面談	面談4名	面談4名		計画作成 行政・施設訪問	計画作成 行政・施設訪問	計画作成 行政・施設訪問
⑥													⑥												
	学校行政訪問	基幹相談支援訪問	情報収集	学校行政訪問	基幹相談支援訪問	利用者確保(1名)	学校行政訪問	基幹相談支援訪問	利用者確保(2名)	学校行政訪問	基幹相談支援訪問	利用者確保(2名)		自立支援協議会参加	期間相談支援訪問	嶺南東特支学校訪問	自立支援協議会参加	基幹相談支援訪問	相談支援専門員のファンリ研受講	利用者確保4名	利用者確保1名	主任相談員研修受講	主任相談員研修受講	医ケア児等 コーディネーター 研修受講	

丸岡南中事業所 令和6年度 事業計画書

令和5年度所長 幅口岳晴

丸岡南中事業所 令和6年度事業報告書

令和6年度所長 幅口岳晴

方針	方針
・誰でもどの部署でもチャレンジし、働きやすい作業環境を再構築する。 ・既存事業を見直し、新規事業に取り組む事で就労継続支援A型事業を継続する。	・誰でもどの部署でもチャレンジし、働きやすい作業環境を再構築する。 ・既存事業を見直し、新規事業に取り組む事で就労継続支援A型事業を継続する。

事業計画の内容		具体的手段		責任者		事業報告		
目標	目的	実行計画	期限	正	副	目標に対する結果	課題	今後の取り組み
【就労継続支援A型】 就労事業の黒字化 ①職員、利用者のスキルアップ(3ヵ所以上の業務に対応出来るようになる) ②新規利用者1名雇用 ③利用者2名サービス移行(令和5年度実績 一般就労1名他サービス1名) ④新規事業に取り組み、利益を上げる。(令和4年度実績91食/日、令和6年度目標150食/日)	就労継続支援A型として事業を継続して行っていくため	①全職員が所要時間に業務を終えるために職員・利用者が現在、携わっている業務に捕らわれずに新しい業務にチャレンジをする。	令和7年3月	サビ管	支援員	①冬期休暇期間中に1名配置転換えを行い、作業の定着図った。【3ヵ所以上の業務に対応できる従業員:計13名】	・3ヵ所以上の業務を行う事が出来る従業員が増えた為、緊急時は臨機応変に対応が出来つつある。しかし、業務内容の専門性が高く、替えがきかない人材もいるため、今後どう引き継いでいくかが課題となっている。	・全従業員が3ヵ所以上の業務を行えるようになり、人に頼らない運営が出来る環境作りを行う。
		②利用者が調理の中心となれるように、給食業務に特化した利用者や将来調理師資格を取得できる能力を有する利用者を1名以上確保する。ハローワークや学校などに求人募集を行う。	令和6年10月	支援員	主任	②調理師試験受験2名中合格0名。嶺北特別支援学校進路指導部に営業を行った。1回/月ハローワーク訪問。【新規利用者雇用:0名】	・運転免許証所持者でも合格者が出ず、勉強方法に課題がある。 ・求人活動の結果、将来的な利用者確保の道筋は見えてきたが、年度内での新規利用者確保が出来なかった。	・学校との連携の成果が出てきて見学者が増えているので、その先の実習・利用につながるように見学後のアプローチもしていく。
		③事業所独自の作業評価表を用いて、個々の能力を把握して一般就労や他のサービスへの移行を行う。	令和7年3月	サビ管	支援員	③保護者面談や相談支援専門員と面談を重ねた。【一般就労移行:0名、サービス移行:1名】	・一般就労希望者がおられるが、求人内容と利用者の希望が合致せず、一般就労に結びつかない。 ・作業評価をしていくと、各人増減はあるが、特に利用者3名において作業能力評価の低下がみられた。	・求職者登録だけではなく、ハローワークに通い求職活動をしていただく。 ・作業能力維持のための支援を行う。また適切なサービス利用も検討する。
		④事業を安定して実施出来るように藤島高校の食事メニューを4月～7月までは5種類のメニューに限定して提供し、8月より8種類のメニューを提供する。	令和6年7月	支援員	主任	④8種類のメニューを提供し、集客力を上げた。【1日あたりの平均利用者数4月:66.8人、5月:79.8人、6月:84.6人、7月:63.8人、8月:51.0人、9月:75.6人、10月:86.0人、11月:90.0人、12月:86.1人、1月:70.4人、2月:90.9人、3月:59.8人】	・黒字化、売り上げ増に向けた施策が必要。	・学校と協議し、契約内容を見直す。
【共同生活援助】 新規利用者1名獲得(定員13名、令和5年現員9名)	定員充足率の向上し給付費収入増を行うため	⑤ハーツ丸岡ハイムにおいて相談支援事業所と連携し、見学者を集める事で利用者を1名以上確保する。また、まち中ホームの廃止の検討を令和6年9月末までに行う。	令和5年9月	サビ管	世話人	⑤グループホームについて本部と協議を行い、来年度の計画を立てた。【定員13名、現員7名】	・GHを必要とされている利用者が少ない。	統廃合や休止等、今後の運営含め関係各位にて協議を行っていく。

スケジュール													スケジュールに対する結果												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①													①												
	配置転換	振り返り		振り返り	配置転換	振り返り	振り返り			配置転換	振り返り			配置転換	振り返り		研修	配置転換	振り返り	振り返り			配置転換	振り返り	
②													②												
	ハローワーク訪問・求人募集			見学・実習			面接1名雇用								ハローワーク訪問・求人募集			見学受入		ハローワーク求人活動、見学対応					
③													③												
	全利用者評価			面談			他サービスへの移行			面談	他サービスへの移行			9名の利用者評価、面談			10名の利用者と面談、作業評価			面談、9月末で1名移行			面談		
④													④												
	新規事業開始	振り返り	振り返り	振り返り	全メニュー提供開始	振り返り								新規事業開始	振り返り	振り返り	振り返り	全メニュー提供開始	振り返り	振り返り					
⑤													⑤												
	面談・見学	面談・見学	まち中ホーム検討	体験利用	契約し1名契約	まち中ホーム検討										面談		面談		見学対応、1名退寮			面談		

おくえつ事業所 令和6年度 事業計画書

令和5年度所長 山品光央

おくえつ事業所 令和6年度事業報告書

令和6年度所長 幅口 岳晴

方針 ・長期的に安定した事業所運営を目指し、利用者の確保・事業の収益性向上に取り組む。 ・利用者が目標・目的を持ち、充実した生活が送れるように環境や活動の見直しに取り組む。	方針 ・長期的に安定した事業所運営を目指し、利用者の確保・事業の収益性向上に取り組む。 ・利用者が目標・目的を持ち、充実した生活が送れるように環境や活動の見直しに取り組む。
--	--

事業計画の内容		具体的手段		責任者		事業報告		
目標	目的	実行計画	期限	正	副	目標に対する結果	課題	今後の取り組み
【生活介護】 新規利用者1名確保 (目標) 現員7名→8名	安定した事業運営ができるよう定員充足率を向上させる	①当事業所の特色である作業プログラムは継続してアピールしていくと共に、それ以外に個々の趣向を活動に取り入れる等、個々の障害や特性に合わせた柔軟な活動も取り入れ、充実した活動プログラムもアピールできるように取り組み新規利用者の確保を行う。	令和7年 3月	サ ビ 菅	支 援 員	【生活介護】 新規利用者1名確保 (目標)現員7名→8名 (結果)実習者1人、見学者0名	①ほぼ毎日通所が出来て作業も可能な利用者がいる。80歳をこえる利用者もいる。以上のことを踏まえて生活介護の継続を検討しなければならない。	①利用人数や地域性を考慮して他事業所と連携できないか協議する。
【就労継続支援B型】 新規利用者1名確保 (目標) 現員9名→10名		②法人内の相談および法人外の相談支援専門員と連携を図り、現利用者のサービス移行などを考えている利用者や在宅からサービスを利用したいと考えている利用者の現状などの情報を得て、利用に繋げていく。また並行して、春、秋の特別支援学校の現場実習の受け入れを積極的に受け入れるため、年3回以上は訪問を行う。		サ ビ 菅	支 援 員	【就労継続支援B型】 新規利用者1名確保 (目標) 現員9名→10名 (結果)見学者1名、実習者0名	②見学者が1名あったが、本人、家族、学校とのニーズに差があったこともあり、生活介護での実習となった。幅広い能力を受け入れる事が出来る作業業種が必要。	②引き続き、相談支援専門員と連携をして、見学、体験、実習を積極的に受け入れる。
【就労継続支援B型】 利用者の工賃向上 (目標) 月平均工賃 23,000円 (令和5年度20,500円)	作業時間が平均工賃につながることから、環境を整え、作業時間を確保し、平均工賃UPにつなげる	③施設外就労(レンタルコミック)は、個々の障害特性や身体的状況などを考慮した作業環境の整備、作業時間の調整など柔軟に対応していくことで作業人員と作業時間(1人あたりの月平均作業時間127時間)を確保する。(令和5年度1人あたりの月平均作業時間113時間) また、作業単価や金額のより高い作業を見つけ、移行を行う。	令和7年 3月	導 目 員 標 工 賃 達 成 指	主 任	【就労継続支援B型】 利用者の工賃向上 (目標) 月平均工賃 23,000円 (結果) 月平均 工賃30,300円 月平均作業時間 112時間	③ 新規の人員を確保出来ない。家庭の事情で長期欠勤者がいる。	③平均工賃の実績をウリに、相談支援専門員と連携をして、見学、体験、実習を積極的に受け入れる。
【就労継続支援A型】 (目標) 商品化3品以上	おくえつ事業所で生産・製造されている物を原材料として使用した商品作りを行い、増収を図る。	④令和5年度福井県商品開発アドバイザー事業で開発した商品の製造・販売(年間販売目標:1,000個、600,000円)するとともに新たな味の商品を2種類以上開発する。 また、新規取引先の開拓を行い、1社以上との取引を行う。	令和7年 3月	成 賃 指 金 導 向 上 達	支 援 員	【就労継続支援A型】 (目標) 商品化3品以上 (結果) 商品化0件	④パッケージや保存方法に問題があり改善中。	④来年度の販売に向けて、生産計画、製造手順書の作成。消費期限確定後、関係機関連携して随時、販売を行う。
【共同生活援助】 利用率の向上 (目標) R4 4.9名→5.1名	日常の生活および休日の余暇の過ごし方等の支援の充実を図り、利用者の生活の質の向上につなげる	⑤余暇の過ごし方の幅を広げることを目的に地域活動への参加促進や公共交通機関を利用できるようになるなどの支援を行い、生活の質の向上を図る。 また、生活の訓練という目的で、当事業所の利用者から体験利用を受けていき、年間平均利用者数5.1名を達成する。	令和7年 3月	支 援 員	サ ビ 菅	【共同生活援助】 利用率の向上 (目標) R4 4.9名→5.1名 (結果) 4名	⑤定員6名/現員5名 地域活動への参加者2名 60代後半1名、50代1名、40代後半3名、の年齢構成になっているため、GHの継続、廃止の検討が必要。5名のうち4名が実家あり。	⑤A型・B型利用者の面談時にGHの利用を促す。GHの廃止、継続を検討する。

スケジュール													スケジュールに対する結果													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
①		→		→			→			→			①	→			→				→		→			
		特別支援学校訪問	相談支援専門員との情報交換	活動プログラムの見直し		特別支援学校訪問	活動プログラムの見直し	特別支援学校訪問	相談支援専門員との情報交換	活動プログラムの見直し		相談支援専門員との情報交換			相談支援専門員と情報交換	見学者1名		見学者1名	退所者1名	相談支援専門員との情報交換		実習者1名		新規利用者獲得に向けて、相談支援専門員と情報交換		
②		→		→			→			→			②	→		→			→			→				
		特別支援学校訪問	相談支援専門員との情報交換	作業時間の確認および改善策の立案		特別支援学校訪問	作業時間の確認および改善策の立案	特別支援学校訪問	相談支援専門員との情報交換	作業時間の確認および改善策の立案		相談支援専門員との情報交換			相談支援専門員と情報交換	見学者1名	実習生1名 見学者1名	見学者2名		支援学校訪問		見学者1名		相談支援専門員と情報交換		
③	→		→		→			→			→			③	→		→		→		→		→		→	
	シフト・環境改善への取り組み		現状把握、対策検討		シフト・環境改善への取り組み		現状把握、対策検討		シフト・環境改善への取り組み		現状把握、対策検討		シフト・環境改善への取り組み		現状把握、対策検討		シフト・環境改善への取り組み		現状把握、対策検討		シフト・環境改善への取り組み		現状把握、対策検討			
④	→			→		→			→			→			④	→			→			→		→		
	開発アドバイザー事業商品検査等実施		開発アドバイザー事業商品製造	開発アドバイザー事業商品販売開始	開発アドバイザー事業商品の新種類開発(1種類)および検査等の実施		新規顧客1件	新規顧客取引開始	開発アドバイザー事業商品の新種類開発(1種類)および検査等の実施			消費期限検査、開発アドバイザー事業追加商品決定		消費期限検査、開発アドバイザー事業追加商品決定		消費期限検査、開発アドバイザー打合せ会議実施		消費期限検査、開発アドバイザー打合せ会議実施								
⑤			→			→	→					→	⑤		→			→				→		→		
			個別面談時に利用募集を行う			個別面談時に利用募集を行う	新規体験利用1名受入れ	新規体験利用1名受入れ	個別面談時に利用募集を行う			個別面談時に利用募集を行う			個別面談時に利用募集を行う		1名退所	1名新規利用			冬季利用者入居	面談時に、GHの利用を促す				

あわら事業所 令和6年度 事業計画書

令和5年度所長 幅口岳晴

あわら事業所 令和6年度事業報告書

令和6年度所長 山品光央

方針 ・先を見据えた事業所運営と、利用者確保・収益性向上に取り組む。 ・利用者のニーズと障害特性にもとづいた質の高い福祉サービスの提供。	方針 ・先を見据えた事業所運営と、利用者確保・収益性向上に取り組む。 ・利用者のニーズと障害特性にもとづいた質の高い福祉サービスの提供。
--	--

事業計画の内容		具体的手段		責任者		事業報告		
目標	目的	実行計画	期限	正	副	目標に対する結果	課題	今後の取り組み
【就労継続支援A型】 福井鋸螺売上前年度 対比プラス5% (目標)売上プラス 300,000円以上/年	・収益性の向上	①現在従事している利用者ごとに数値目標を設定し、作業動作と作業の優先順位を見直して、生産性の向上を目指す。	令和7年 3月	資金達成 向上指導 員	支援員	(目標) 売上前年度対比プラス 300,000円以上/年 (結果)【未達成】 売上前年度対比 290,523円 (今年度7,321,370円 昨年度 7,030,847円)	①施設外先の企業の発注量が、当事業所の対応可能量を超えた場合の作業人員の確保が難しい。	・リサイクル事業からの応援体制の構築。
【就労継続支援B型】 月平均工賃UP (目標)月平均工賃 30,000円以上(前年度 26,000円予測)	・給付費増(最終目標 月平均工賃45,000円 以上)	②A型施設外就労先にB型でもできる作業がないか交渉し確保する。軍手不良率低下のため、軍手・ウエスは配達方法を一部発送にし、配達に係る人員が軍手製造業務に従事できるようする。(目標不良率5%以下)	令和7年 3月	目標工賃達成 指導員	支援員	(目標) 月平均工賃 30,000円以上(前年度26,000円予測) (結果)【達成】 令和6年度 平均工賃 35,259円	②施設外先の企業の発注量が、当事業所の対応可能量を超えた場合の作業人員の確保が難しい。	・A型の施設外と情報を共有しながら、最大限量を受注していく。
【就労継続支援B型】 利用者1名獲得 (目標) 現員16名⇒17名		③利用者が作業しやすいように、個々に合った備品、寒暖対策、休憩スペースの設置、刺激の少ない作業環境をつくる。また、相談支援専門員と連携して、見学者を集めて、実習から利用へ結びつける。	令和6年 12月	サビ管	支援員	(目標) 利用者1名獲得 現員 16名⇒17名 (結果)【未達成】 新規利用者 1名 現員 15名	③利用者が2名退所し、その後新規の利用者が確保できていない。	・引き続き、事業所パンフレットを作成し、相談支援事業所15カ所、特別支援学校への情報提供をして募集していく。令和7年10月から就労選択支援事業を実施される事業所への訪問し、情報を得る。
【生活介護】 生産活動の導入 (目標)工賃支給2名 支援手順書作成 (目標)作成済み3名⇒ 全員	・活動内容の充実 ・統一した支援の提供 ・専門職員の育成	④現在行っている日中活動に加え、利用者ニーズに基づきB型で行っている糸管作業を生活介護の生産活動として取り入れ、工賃に結びつく活動を目指す。支援手順書を現員6名分作成し、支援手順書による統一した支援を提供する。その他、必要な研修参加や実習も行い、介護職員としての知識と経験値を身に付ける。	令和7年 3月	サビ管	支援員	(目標) 工賃支給 2名 (結果)【達成】 工賃支給 3名	④利用者にあった作業種を取り入れ、作業日や作業時間を増やしていく必要がある。	・現在している紙管作業以外の作業種を増やすために、令和7年度チャレンジに軍手の草木染に挑戦していく。
【相談支援】 (目標) 新規契約者4名獲得	・給付費収入増 (令和5年度契約者数 66件)	⑤法人内外を問わず、障害児・者で4名獲得を目指す。基幹相談・委託相談・行政を定期的に訪問又は連絡をとり、関係性の構築、利用希望の調査など把握し、新規契約者を獲得する。	令和7年 3月	相談支援専門員	管理者	(目標) 新規契約者 4名獲得 (結果)【達成】 新規契約者 5名獲得 (うち障害児2名) 4-3月給付費 3,331,120円(前年対比プラス 557,420円)	⑤サービス等利用計画とモニタリングの実施月によって、業務過多になる月がある。給付費増と質の向上を目指し、人材育成にも取り組んでいく必要がある。	・今後も実施時期の変更を順次おこない、令和7年度目標契約者数を達成できるように体制づくりを継続していく。また、関係機関との連携強化と相談支援員としての専門性と質の向上にも努めていく。

実施状況													スケジュールに対する結果														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
①													①														
	福井紙螺訪問 目標数値の設定・見直し			福井紙螺訪問 振り返り・評価・修正 前年度売上2%up達成			福井紙螺訪問 見直し 前年度売上対比3%UP達成			福井紙螺訪問 振り返り・評価 前年度売上対比5%up達成				① 所長と施設外担当者にて福井紙螺の課長、係長を訪問し、外注作業の発注状況の情報収集と今後の受注体制の確認などを行った			トヨタのデータ改ざんの影響で一部部品の受注がなくなった影響はあったが、前年度対比2%増となった			十分な人員の配置ができず最大限の受注量を確保できず、前年度売上対比1.5%減となった			リサイクル部門からの人員応援や単価の高い作業の受注などにより昨年度売上対比104%となる				
②													②														
	取引先企業訪問・交渉 軍手生産体制づくり			施設外就労開始 軍手配送実施 軍手不良率7%			工賃額と評価表見直し 取引先企業訪問・交渉・決定 軍手配送等の実施			平均工賃額の振り返りと修正 継続・廃止への実施 軍手機械稼働時支援員在任 軍手不良率5%以下				② 施設外就労開始 軍手・ウエスの配達方法の見直し			新規作業の試行を実施。獲得に向けて利用者の人員配置の見直しを実施			10月に利用者の工賃単価の見直しを行った			軍手部門からの人員応援などで対応する				
③													③														
	情報収集			見学・面談・実習 環境調整			利用者確保							③ 作業環境及び休憩スペースの見直し			9月から新規利用者1名利用となる (法人内サービス移行：丸岡南中A型→あわらB型)			10月に1名、11月に1名退所し、17名から15名に減			相談支援事業所への情報提供を行うが、新規利用者確保に至らず				
④													④														
	支援手順書作成(1名) 活動見直し	支援手順書作成(1名) 生産活動提供	支援手順書作成(1名)	振り返り・修正 実習			支援手順書見直し 生産活動見直し・改善 研修			工賃評価表の作成			評価	工賃支給		④ 2名の利用者をピックアップし、紙管の作業などを試しに行った			継続しての作業ができておらず、どのように支援をしていくのか再検討を実施			利用者の意欲向上ができず、生産活動見直しと改善が不十分である			継続して作業ができる環境作りと声掛けなどの支援を行い、工賃の支給ができた		
⑤													⑤														
	行政・学校訪問	相談支援事業所訪問	情報収集	訪問・面談・インターク			行政・学校訪問			相談支援事業所訪問	情報収集	訪問・面談・インターク			利用者確保(2名)		行政・相談支援事業所訪問	利用者獲得(2名)	利用者獲得(1名)	若狭相談より利用者移行(1名)	利用者獲得(1名)	モニタリング・サービス等利用計画 実施月の変更を順次実施			基幹相談巡回・訪問 医療的ケア児等コーディネーター 養成研修受講		

小浜事業所 令和6年度 事業計画書

小浜事業所 令和6年度事業報告書

令和5年度所長 近者 篤

令和6年度所長 近者 篤

方針 ・利用者個々に応じた良質なサービス提供に努める ・利用者、職員共に快適で満足できる施設づくりを目指す	方針 ・利用者個々に応じた良質なサービス提供に努める ・利用者、職員共に快適で満足できる施設づくりを目指す
---	---

事業計画の内容		具体的手段		責任者		事業報告		
目標	目的	実行計画	期限	正	副	目標に対する結果	課題	今後の取り組み
【生活介護】 利用者確保 ・平均利用者数 R6年度目標19.2名 R7年度新規1名	・利用者確保により 給付費収入の安定 を図る ・次年度新卒者獲得	①活動道具の置き場所を分かりやすく配置したり、動線に配慮した空間づくりなどの構造化により、今以上に利用者ニーズに応えられるよう、個別支援を充実させる。	令和7年 3月	サ ビ 管	支 援 員	【生活介護】 利用者確保 ・平均利用者数 R6年度 第4四半期11.9名(実績) 8月新規1名契約(他施設併用利用者) 12月新規1名契約(他施設併用利用者)	①5月活動道具の収納場所をイラスト表示。6月パーティーションで個別活動場所を整備した。動線に配慮した空間づくりと表示物の更新を行った。	今後も、動線に配慮した空間づくりや分かり易い表示物の掲示に努めていく。
		②高等部3年生の1名実習受け入れにより、令和7年度に新規でご利用いただけるよう働きかける。 ・実習受け入れ準備(事前に構造化を取り入れ)、アセスメント、本人特性に応じた対応を支援学校と連携し取り組む。	令和6年 12月	サ ビ 管	支 援 員		②6月に高等部2年生3名を実習受け入れ。事前に学校見学を実施し、実習対象者のアセスメント実施。実習後に担当教諭と振返りを実施し課題等を共有した。アセスメントや課題の洗い出しを更に深める必要あり。	実習では、アセスメントや課題の抽出を更に丁寧に深めていく必要あり。 2月に新規利用希望の見学者受け入れを行ったが、まだ利用に繋がっていないので、4月に新規利用契約できるよう相談員と連携する。
【共同生活援助】 ・利用者確保 6名⇒7名	・利用者確保により 給付費収入の安定 を図る	③既存利用者や他法人利用者に、グループホーム入寮希望者がいないか情報収集し、寮生1名確保を目指す。	令和6年 9月	主 任	サ ビ 管	【共同生活援助】 ・利用者確保 R6年度 第4四半期6名(実績)	③現在、入寮候補者がいない。	相談員等と情報交換し、入寮候補者を探る。 情報交換する相談員を増やしていく。
【全体】 ・成年後見制度促進 研修実施1回 制度利用1名以上	・高齢化に伴い、将来を見据えた準備	④利用者や保護者の高齢化に伴い、将来、スムーズなサービス移行等を見据えて制度の利用促進を図る。 ・成年後見制度研修 保護者向け 1回実施。 ・制度利用者を1名以上増。	令和6年 12月	所 長	サ ビ 管	【全体】 ・成年後見制度促進 研修企画・未実施 制度利用増なし	④成年後見制度の研修企画が未実施となってしまう。	次年度に研修を実施し、制度利用を促していく。
【全体】 ・地域貢献活動実施 地域ゴミ拾い4回 バス停清掃 2回 募金活動 1回	・社会の一員である ことの意識づけと、 地域住民への認知 を図る	⑤令和5年度に実施したチャレンジの取り組みを継続。地域貢献活動の継続・強化することで、利用者の社会参加を促すと共に、広報活動により地域住民への事業所の取り組み周知にも繋げる。 ・地域ゴミ拾い4回／年、バス停清掃2回／年、募金活動12月実施 ・新聞等により、取り組みを広報。	令和6年 12月	サ ビ 管	支 援 員	【全体】 ・地域貢献活動実施 地域ゴミ拾い 4回 バス停清掃 2回 募金活動 12月(小浜2カ所、名田庄1カ所) ※新聞とケーブルテレビで広報実施	⑤退所等により、外に出てゴミ拾い等の活動が出来る利用者が減っている。猛暑により夏季の活動実施に配慮が必要。	計画どおり実施することが出来た。今後も継続して取組みをしていく。

スケジュール													スケジュールに対する結果												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	→			→			→			→			①	→	→	→	→	→		→					
	構造化の 提案検討	構造化を 実施	構造化を 実施	空間づくり 提案検討	空間づくり 実施	空間づくり 実施	構造化 見直し	再構造化	再構造化	空間づくり 見直し	再空間づくり	再空間づくり		構造化の 提案検討	収納場所 イラスト化 実施	パーテーション 個別スペース 設置	空間づくり 提案検討	動線に配慮した 空間づくり実施		表示物を見直し					
②	→			→			→						②		→	→	→	→		→	→	→		→	
	実習生 アセスメント	実習生 受入準備	実習生 受入	実習評価	実習生 アセスメント	実習生に 応じた 構造化	実習生 受入準備	実習生 受入	実習評価 保護者面 談						実習生 受入前見学 アセスメント	実習生 3名受入	新規利用 体験受入	新規1名 利用契約		実習生 3名受入	新規利用 体験受入	新規1名 利用契約		新規希望者 見学受入	
③	→			→									③								→				
	情報収集 面談	情報収集 面談	情報収集 面談	情報収集 面談	体験受入	利用者確保								未実施			未実施				相談支援事 業所3カ所と 情報交換				
④			→				→						④												
			保護者向け 研修企画	研修案内	保護者向け 後見制度 研修開催		保護者面 談により 個別相談	個別相談 継続	個別相談 継続					研修会企画 中			未実施			未実施			未実施		
⑤		→	→	→		→	→	→	→				⑤		→					→	→	→	→	→	
		地域の ゴミ拾い 活動実施	地域の ゴミ拾い 活動実施	名田庄 バス停 清掃実施		地域の ゴミ拾い 活動実施	地域の ゴミ拾い 活動実施	名田庄 バス停 清掃実施	募金活動 広報活動						地域の ゴミ拾い 活動実施		未実施			名田庄 バス停掃 除	地域の ゴミ拾い 活動実施	募金活動 実施	名田庄 バス停掃 除	地域の ゴミ拾い 活動実施	

丹南事業所 令和6年度 事業計画書

令和5年度所長 松浦満夫

丹南事業所 令和6年度事業報告書

令和6年度所長 恐神さやか

方針	方針
・就労支援事業の収支向上に努め、高い工賃を支給できる事業所を目指す。	・就労支援事業の収支向上に努め、高い工賃を支給できる事業所を目指す。
・利用者一人一人の特性に応じた、作業内容、作業時間を提供できる事業所を目指す。	・利用者一人一人の特性に応じた、作業内容、作業時間を提供できる事業所を目指す。

事業計画の内容		具体的手段		責任者		事業報告		
目標	目的	実行計画	期限	正	副	目標に対する結果	課題	今後の取り組み
月平均工賃(R5年度見込36,000円)を維持しながら、利用者の確保を行う R5年度見込19.0名 R6年度目標20.0名	作業の能力を向上させ、利用者の希望する工賃に近づけていく。	①他事業所職員の協力を得ながら、耕作する。また、新しい品種の作付に取り組む。(2種 ふくむすめ・華越前) 令和4年度実績、作付面積31,000㎡、収穫量15トン(売価4,500,000円) 令和5年度実績、作付面積36,000㎡、収穫量16.5トン(売価4,950,000円) 令和6年度目標、作付面積35,000㎡、収穫量16トン(売価4,800,000円)	令和6年9月	サビ管	支援員	①昨年と同品種のあきさかりと新品種の華越前とふくむすめの計3種の収穫が終了した。 収穫量16トンを予定していたが、約13トンの収穫となった。	①収穫後の電気柵の撤去は実施した。来年度に向けて作業従事体制を検討する。	①来年度の作業従事体制を検討する。販売価格の見直しも検討する。
		②利用者の時給設定の基となる評価表を見直し、工賃に反映させる。また、作業ごとに写真等でわかりやすく掲示し、だれでも取り組める作業を増やす。	令和6年12月	サビ管	支援員	②4月に利用者の時給の見直しを実施し、5月支給分よりUPすることができた。	②工賃UPにつながるような新規の作業を開拓したが、検品など職員の負担が増える作業が多い。	②効率のよい作業や、納期に余裕がある作業を開拓していく。
	全利用者が長期的に安心して通所できる事業所を目指す。	③目玉となる商品、独自の商品を作る。(米粉パンなどを検討する)	令和7年3月	サビ管	支援員	③レシピを検討中 ④6月からの新規作業の米麴の製品化作業は順調に進んでいる。	③利用者の方が製造できるレシピを取引業者の担当者と検討を進める。	③新しい担当者と検討してレシピを考えていく。
		④受託作業を新規で2件以上の獲得を目指す。利用者にとって取り組みやすい作業に替えていく。	令和7年3月	サビ管	支援員		④1名の利用者の方は、随分慣れた様子で問題なくできている。もう1名の利用者の方も問題なく作業できた。他の利用者の方も出来るように支援していく必要がある。	④他の利用者もできるようにするには、どう支援したら良いかを支援員で検討していく。引き続き新規受託先を探していく。

スケジュール													スケジュールに対する結果												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	→		→		→			→						①	→		→		→		→		→		
	耕起	田植え	水管理・除草			収穫	販売							耕起	田植え	水管理 除草	水管理・除草		収穫	電気柵の 撤去	販売		販売		
②	→			→									③	→											
	評価表を見直し、 能力評価を行う			写真等で掲示する										評価表を見直し 時給の見直しを行う											
③	→			→			→			→			④	→			→			→			→		
	新商品の開発・検討			試作			再検討			販売				新商品のレシピの検討			製パン会社の担当者とレシピ の検討中			製パン会社の担当者とレシピ の検討中			試作品製造		
④	→			→			→			→			⑤	→			→			→			→		
	営業			新規作業の試行			検討			作業開始				新規受託作業1件獲得			新たな受託作業を開拓中			新たな受託作業を開拓中			新たな受託作業を開拓中		